

六甲カトリック教会 教会報



来日迫る パパさま・教皇フランシスコ



(C) Vatican Media

いよいよ教皇フランシスコが来日されます。
教皇の来日は 1981 年 2 月のヨハネ・パウロ 2 世以来の 38 年ぶりになります。

11 月 23 日 (土・祝) 東京着
24 日 (日) 長崎、広島訪問
(長崎でミサ、広島で被爆者との面談)
25 日 (月) 東京ドームでミサ
26 日 (火) 離日

という日程になっています。

六甲教会では東京ドームミサ参加ツアー募集をまとめて行ったところ、募集開始後すぐに予約申し込みが相次ぎました。泊まり、日帰り両ツアー合わせて 36 の方が参加されます。ほかにも個人的に東京ドームや長崎ミサに参加する方もいます。

このたびの教皇来日では「すべてのいのちを守るため-PROTECT ALL LIFE」というテーマが掲げられています。教皇は環境問題や平和について深い想いを抱いておられ、トランプ米大統領の移民政策や環境政策に遠慮のない批判をぶついたりしてきました。長崎原爆の写真「焼き場に立つ少年」を全世界で紹介されるなど、人類の平和といのちのために、積極的に行動されているのがわかります。また死刑廃止を強く求めるフランシスコ教皇は、この来日中に再審請求中の死刑囚袴田巖さんと面会されるような話も伝わっています。

POPE FRANCIS IN JAPAN
ロゴマーク



カトリック教徒が極めて少ない日本に教皇さまが足を運ばれるということは、過去の殉教キリシタンへの思い、広島、長崎など核の犠牲者に対する思いに加えて、死刑廃止、環境破壊、難民・移民問題などさまざまな問題を抱える世界へあまねく呼びかけをされたいのではないのでしょうか。教皇様の行動力にはただ感嘆するのみです。
(編集部)

■POPE FRANCIS IN JAPAN ロゴマークは、教皇来日のテーマである「すべてのいのちを守るため」という想いを表しています。自然豊かな日本を緑の炎で、殉教者の赤い炎、聖母マリアの水色の炎とが一体となっています。丸い赤い円はすべての命を包み込んでいます。

■第 266 代教皇フランシスコ (ホルヘ・マリオ・ベルゴリオ) 1936 年 12 月 17 日 アルゼンチン・ブエノスアイレス生まれ。同国イエズス会管区長を経てブエノスアイレス大司教、2001 年枢機卿叙任 イエズス会員として初めての教皇になる。

2019年度第3回小教区評議会（2019年10月13日）議事録《要約》

日 時:2019年10月13日 12:00～13:50

場 所:信徒会館 第4会議室

出席者:アルフレド主任司祭 議長 副議長 書記

信徒会(壮年会 青年会 教会学校 地区会)

専門部会(典礼部 社会活動部 広報部 施設管理部)

防災計画PJ 事務所

1 協議事項

①六甲教会防災計画(地震対策編)案について・・・防災計画PJ

- ・地震訓練の実施 第1回 2020年1月26日(日)10時ミサ後を予定
- ・防災用品の備蓄 当初約10万円を予定
- ・2020年度防災備蓄品予算は評議会予算での計上としたい。
- ・3月末までPJ チームとし、4月新年度からは防災委員会を発足させる。
- ・今後の課題7時半ミサ・19時ミサ時の地震対応、備蓄品の詳細検討、避難経路の確定等並びに六甲カトリック教会消防計画との整合性
- ★課題は山積するが、とりあえず地震訓練を実施し、委員会を設置して検討していく。

②チャリティバザーの収益金の献金先について・・・社会活動部

- ・主として従来通りとするが、ミンダナオ子ども図書館への献金は、決算報告がなされないため今回からは取り止めにする(→承認)。代わりに難民支援に献金したいとの提案があったが、同目的での献金は、毎年記念日に堂内献金が送られていることから、バザーの収益は、献金先を集約することとなった。

③2020年度の予算の作成について・・・議長

- ・2019年度上半期各部会の予算執行状況を、財務部から各部会へ10月末までに報告する。
- ・それを受けて各部会の活動計画と予算提出する。11月24日締切
- ★第4回評議会で審議・決定する。

④2020年度年間予定表の作成について・・・議長

- ・2019年度までは広報部が作成していたが、次年度からは評議会で作成する。
- ★各部会、信徒会は対応よろしく願います。

2 報告事項

①各部会報告

- ・施設管理部:聖堂内ディスプレイ設置を計画中である。
- ・広報部:WEB 会議でイエズス会の4教会 例年通りクリスマスメッセージを交換する。

②神戸地区宣教司牧評議会報告・・・副議長

- ・パウロ書店が12月27日をもって閉鎖する。

③東ブロック会議・・・議長 特記事項なし

- ★第4回小教区評議会 12月8日(日)12時より 於信徒会館第4会議室 以上

グループ紹介 朗読(ろうどく)の集い

声を出して自分の好きな日本語を読み、また他の人の音読に耳を傾けて楽しむ集まりです。

5年前から始め、老若男女、他国の方の参加もあります。

各自が持寄るテキストは、新聞のコラム・投書、文庫本のエッセー、小説、文化評論、絵本や詩歌、聖書も有り(多種多様で制限なし)。

興味のある方は、5分間で読める分量をあらかじめ各自で用意して御参加下さい。

読み方についての指導はありません。朗読された内容について皆で自由にコメントします。

【日 時】 第2(日)、第4(日)の朝8時40分～9時半

【場 所】 信徒会館二階 第5会議室

【世話係】 阿部 陽子、塚崎 雄一



祈りと音楽の集いに参加して

10月13日(日)、台風一過で澄みきった秋晴れの午後、オルガンと歌で綴るミサの音楽が主聖堂に流れました。宗教音楽を歌うことを目的として結成された女声ヴォーカルグループ「アンサンブル六甲」が「チェルレウム・マーレ(青い海)」に改名して初めての演奏会でした。

始めの前奏、あわれみの賛歌から始まり、最後の拝領の歌、後奏に至るまで、ミサが一貫してラテン語の歌詞とオルガンの音色だけで繰り広げられ、語りの部分は一切ないのが特徴でした。アルフレド神父さまも、栄光の賛歌と信仰宣言の冒頭部分をラテン語で歌われ大役を果たされました。

私が特に感動したのは、最初のKyrie(キリエ)の多声音楽でした。今回は3声で、3つのパートの人が、それぞれ一つの旋律を少しずらしてあとから歌い出し、幾度も畳みかけるよ



うにあとからあとから歌い、しかもアカペラなので、一人一人が音の高低、長さを正確に歌わないと全体が調和されないというとても難しいテクニックですが、それが最後にピタッと3パートの音色が美しく調和された時は、震えるような感動に浸りました。最後の晚餐から始まったミサの長い歴史の中で、主に中世とバロック時代に流行った多声音楽やオルガン演奏によるミサを味わっている時間は、まるでタイムスリップしてその時代の空間にいるような気がし、目まぐるしい現代社会から離れ、とても幸せなゆったりとした気分に含まれた午後のひと時でした。このような素晴らしい機会を与えて下さった演奏者の皆様に心から感謝!! ありがとうございました。

(井川 伸子)



社会活動部より

- ・11月 6日(水) 10時 手芸の集い
(第1、第2会議室) どなたでも参加ご自由です。
- ・11月10日(日) 10時~ホラソティイ支援グループ
バザーに出店 第3、第4会議室
- ・11月22日(金) 9時半 ともしび会
施設の子もたちへのケーキ作り
(イグナチオホール台所)

(ご注意) 11月はバザーがあるので、炊き出しとふれあい広場はお休みです。

・難民移住移動者支援のためにシナピス工房ブースを設けることにしました。皆様、ご協力のほどよろしくお願い致します。第4会議室で販売しております。(売上は、大阪教区シナピス難民移住移動センターに献金されます。)



施設管理部園芸係から

ベルタワの聖母子像は1995年1月の阪神淡路大震災で亡くなられた方々への鎮魂の気持ちを込めて、ベルギーのアントワープの市民から送られました。慈愛に満ちた顔のマリアは行き来する私たちを見守っておられます。ベルタワの出入口だった開口部にぴったりのサイズのご像を据え、背後の壁にはブドウの



木がデザインされ、手前にはミニガーデンスペースも作られました。

記念日や祝日にはお花が活けられ、優しさをイメージした草花を季節ごとに植え替え、定期的なお手入れ、お水やり等、世代を超えた方々にお世話いただいています。

道行く皆様にも安らぎを感じていただけることを願っています。

バザーが終わればクリスマスツリーの電飾と共に、お正月、イースター向けのレイアウト考える頃になります。11月~12月にかけて落ち葉の清掃、苗の植え替えをします。多くの方のお手伝いをお願いします。

バーベキュー大会・盛大に開催(9月29日)



一年前は、台風の直撃で中止になった。今年も天気予報では雨だったが、日ごろの行いのおかげか、神のお恵みによるのか、当日は晴天に恵まれ、真夏のような暑さに、急遽かき氷も出店することになった。

主催の壮年会10名、婦人会15名で、チームワークよく準備は進み、10時30分焼肉開始。ミサ終了後の11時過ぎから行列のできる盛況、わずか30分で完売となった。25kgのお肉を準備、150人は大丈夫と見積もっていた

が、飛ぶような売れ行きで、最後は申し訳なくも「売り切れゴメン!」となった。

イグナチオホール・信徒会館・屋外のテントと3カ所の喫食場所は満席状態、お喋りに花が咲いて、大いに親睦の功を果たした。「美味しかったよ!」の声を励みに、早朝8時半から皆様のお帰りの後の後かたづけまでお手伝いくださった皆様には、立ちっぱなしの長時間、本当にありがとうございました。感謝!感謝!です。

(林 和俊)

11/10 チャリティーバザーからのお願い



① 出品のお願い

「蚤の市」と「古着」は、持込場所・締切日が異なります。

「蚤の市」は、11月3日（日）までに聖堂入口へ。

「古着」は、11月8日（金）・9日（土）に信徒会館へお持ちください。

② 売れ残り処理にはお金がかかります

押入れの片付けのためではなく、自分が欲しくなるようなものを出してくださいね。

最近、100均ショップで手軽に買えるようになり、売れ残りも増えました。

以前は残品を再利用してくれる事業者がいましたが、最近はなくなり、売れ残りの処理にはお金がかかります。厚かましいお願いですがよろしくお願いします。

③ 参考までに困るのは

自宅で飾っていた大きな額、重たい置物、半端な食器セット、思い出の骨董品、黄ばんだシーツ、肌着、化粧品、薬、期限切れの食品などです。

大切な遺品のメダイやロザリオも売らないでください。

④ 当日は会場の混雑が予想されます。

会場係員の指示に従ってお楽しみください。

雨天決行です。当日の駐車場は使用禁止です。



三日月会からのお知らせ

11月18日(月)14時からの三日月会例会は、現在ときわ病院回復期リハビリテーション専従医の西林先生（整形外科医）をお招きし、国民健康づくり運動のお話をさせていただくことになりました。内容は下記の通りです。多くの会員の参加をお待ちしております。

**演題名：21世紀における国民健康づくり運動
（健康日本21）**

- ・[健康日本21]の9課題の紹介
- ・[健康フロンティア戦略]の9項目の紹介
- ・病気とは何ですか？
- ・WHOの考える[健康]
- ・病気の成り立ちと危険因子
- ・スピリチュアリティは健康に寄与するか？
- ・心は脳か？
- ・生活習慣は大切！



人生100年時代になりつつあり、ある意味では、大変ですね。私も、生涯学習・生涯現役で行こうと思っています。私の基本的考えは、人は何らかの病気持ち、人は何らかの障害持ち、人は大なり小なり発達障害です。この上に立って、現代日本の健康問題について考えてみようと思います。



みんなの広場

「教会報〈創刊号〉の頃」

縁あって今年4月から教会広報紙の編集メンバーに加わっている。いまある教会報がどのような経緯で発刊に至ったのか気になり、創刊号を探してみた。幸い教会の図書室に創刊号(1968年10月発行)から保存してあった。

1968年といえば今からほぼ50年前である。教会の創立が1948年であるから20周年を記念して発刊された。表紙のタイトルとイラストは手書き(「六甲カトリック教会」が当時の公式名称であったことが分かる)。発行費用捻出のためか、記事の間には広告を入れている。原稿だけを用意し、印刷は業者に委託していたのであろう。色褪せたページの一枚一枚をめくっていくと当時の切実な印刷事情が伝わってくる。

創刊号巻頭は当時の大阪司教田口芳五郎神父が書かれている。当時六甲教会には7名の神父様がおられた。うち6名の方が外国人であったが、毎回巻頭言を執筆されている。「発行準備号」(8月15日発行)に「冒頭は神父が執筆する」との約束がしてあったからである。

発刊当時教会の外部は決して平穏とはいえず、いくつもの課題が山積していた。「靖国神社法案」「学生問題(今の香港に似た状況が起きていた)」

などである。教会内部でも第2バチカン公会議(1962~65年)が開かれて間もない頃であり、「エキュメニカル(キリスト教の一致)」「信徒使徒職」などの言葉が頻繁に見えるのは、社会と教会が分断される危機を敏感に感じ取っていたからであろう。これらは日本だけの問題でなく、世界的な現象であった。

今回読んだのは創刊号発行後1年余りの広報に過ぎない。しかし当時グローバル化した現在の状況と多くの点で似通っていることに気づかされる。半世紀続いた教会報の一年一年を「ひも解いて」といくと、六甲教会のあゆみとまた将来が見える。昨年2018年は、教会が創立70周年を迎えた年であった。教会あるいは教会報として何らかの記念すべき事業を企画できないだろうか。(ヤコブ 紙谷 寛)



クリスマス チャリティーコンサートのお知らせ カトリック社会活動神戸センター~支援のため

日時: 12月7日(土) 13時~16時(開場12:30)
場所: カトリック神戸中央教会主聖堂
主催: 神戸地区社会活動委員会(シナピス神戸)
入場: 無料

(路上生活者支援のための活動資金に皆様から愛の献金を!)
詳しくは、聖堂入口の掲示板ポスターをご覧ください。



六甲春秋

～中村神父によるエッセー 第5回～秋深し(?)～

めっきり涼しくなった。夜は少し寒いほどで、シーツやタオルケットでは足らず、今や毛布や布団を引っ張りだす必要に迫られている。日本の四季の移り変わりに、ただ感謝するばかり。部屋の片隅で扇風機が暇を持て余し、永いお蔵入りを待っている、ほんの数日前までは大忙しで酷使されていたのに。

四月の下旬以来こまめに、各教会で行われる音楽会を聞きに行った。かつて益田教会に丸5年いた。近くの臨済宗のお寺の本堂（住職さんは、市内の私立幼稚園連合の会長）で開催されたコンサートで、グノーのアヴェ・マリアを印象深く聞いた。その折にチェンバロに書かれたラテン語の言葉を思い出す、「音楽は悲しむ魂の薬、万人の心の喜び」。まさにその通りだと思う。音楽に耳を傾ける時に、或る交わり・連帯感が創りだされる。作曲家と演奏家と聴衆とを結び合わせる不可思議な一体感が、醸し出されるといえば良いのか。この五か月の余暇にまかせて、神港教会を皮切りに聖愛、芦屋、神戸中央を訪れ、またこの六甲教会でも既に二回「祈りと音楽の集い」に参加した。それぞれ事情は大きく異なるが、一つだけ確実に言えることがある。暑さや多忙も厭わず足を運ぶ聞き手は、決してキリスト者に限定されず、かなり多くの教会外の方々が集まり喜んで耳を傾けている事実だ。

ちなみに少し話が飛躍するが、私が自ら滞在し自分で見聞した外国の町や地域でも、これほど多くの「カラオケ」の店が営業し、人々がほとんど日常的に利用して、

生きる力・耐えて頑張る力を現に汲み取っている不思議な国民は他に無い。残念ながらお寺さんも神主さんも牧師さん神父さんも、まさに顔色なしといえそうだ、人々はこのセチガイ人生を乗り切り頑張る力を「カラオケ」から、しっかり汲み取っているからである。

またあるチラシをみて驚いたのは、五つか六つの一般のコーラス・グループの合同演奏会の案内だったが、何と半数がグレゴリアンの曲目を加えていた。しかしキリスト教界において50年前ならばいざ知らず、グレゴリアンの調べで典礼を行い、その霊性を生きている修道院も教会も、残念ながら全世界的にみてもごくごく少なく、まさに絶滅に瀕しているといっても過言ではない。無伴奏でモノフォニーによる強弱・高低・緩急からあふれ出る輝きも力強さも奥深さも、キリスト教界では受け継いでいく伝統も意欲も最早ないに等しい。

しかしながら、これほど音楽好きの国におけるキリスト教の典礼の現状は、いったいどうであろう。教外者の愛好や関心に応え、参加する全ての人々の秘かな心の願いを満たし代弁しているのか。音楽的な巧拙や優劣を問題にしているのではない、むしろキリスト者のヒタムキサ真剣度である。懸命に声も力も合わせて人々の代表として、主なる神に切に祈り賛美し感謝の心があふれているのか。喜びの音信が現に宣教されているのか。歌である主を、共に称えよう。

中村 健三 合掌



【 2019年11月予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
					1 諸聖人ミサ 7:00 10:00 ◎灘北2・阪神	2 死者の日ミサ 7:00 10:00
3 年間第31主日 秋の墓参 バザー一番の市 持込終了	4 教会受付休み (振替休日のため)	5	6	7	8 ◎灘南・神戸西 バザー古着持込日	9 ラテラン教会の献堂 教会学校休み バザー古着持込日
10 年間第32主日 7:30 9:00 チャリティバザー 10:00	11	12	13	14	15	16 ◎教会大掃除 9:00 地区役員会⑤ 大掃除後
17 年間第33主日 貧しい人のための世 界祈願日 聖書週間(~24日) 七・五・三祝福式 10:00ミサ中	18 三日月会 ミサと懇親会	19	20	21 ◎定期清掃	22	23
24 王であるキリスト クリスマスの飾りつけ 10:00 ミサ	25	26	27	28	29 ◎灘西・中央	30 聖アンデレ使徒

◎は掃除当番地区です。

《 募金協力のお礼 》

10月19日(土)20日(日)に台風19号被災者のための募金をお願いしましたところ
金額は305,290円となりました。皆様の温かいご協力ありがとうございました。



パパ様が来日されるにあたり、なんだか落ち着かない。というのもネットで個人での参列を申し込んだので返事が遅いせいだろう。六甲教会経由の方々は早々に確保できたとか。東京にいる姪と、大阪にいる妹と一緒にごミサを預かりたいと思ったからだが、「スター扱い」してはいないだろうかと気になる。テロ対策のため身分証明は必須で、当日の警備体制もかなり厳しいようだ。粛々とその日を待ちたい。(M.I)

<p>次回12月号の発行は、11月30日(土)です。 原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX やメールでお願いいたします。皆様からの原稿をおまちしております。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 E - メール renraku@rokko-catholic.jp 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編 集 広 報 部</p>
---	--